

## 2 計画の進行管理

## 2 計画の進行管理

### (1) 第2期環境基本計画前期行動計画

第2期環境基本計画前期行動計画は、ふじみ野市の豊かな自然環境と都市環境が調和する良好な環境を将来に引き継ぎ、また、地球環境保全などの環境課題に対し、市、市民、事業者が共通の目標を掲げ推進するために策定されました。

本計画は、施策の方向性である4つの「施策の柱」を定め、それぞれの柱ごとに、基本的な考え方と施策の展開を示し、その方向性にそって各主体が取り組み、より実効性あるものとするために行動指標を設定しています。

この行動指標は平成28年度を基準年度、令和4年度を目標年度として48の数値目標等を定め取り組んでいます。

### (2) 令和4年度の進捗状況

第2期環境基本計画前期行動計画には48の行動指標がありますが、そのうち「現在評価が可能な46指標※」について達成の有無を「評価1※※」としたところ、目標を達成できたものは22項目48%、途中の進捗状況も加味した「評価2※※※」では70%でした。

※ 現在評価が可能な46指標

「1人当たりの公園等面積」と「緑被率」の2指標については、次期「緑の基本計画」策定の際に算出を想定しており、それを除くと現在評価可能な指標は46です。

※※ 「評価1」

令和4年度の目標値に対し、達成していれば「○」、未達成の場合は「×」。

※※※ 「評価2」(進捗状況を加味した評価)

令和4年度の目標値に対し、達成済3点(100%達成)、あと少し2点(約90%達成)、一部実施1点(10~90%達成)、未着手又はほぼ進んでいない0点(0~10%達成)として点数化しました。

◎ 第2期環境基本計画・前期行動計画の進捗状況(令和4年度)

「評価1」:目標値に対し、達成していれば「○」、未達成の場合は「×」。

「評価2」:達成3点(100%達成)、あと少し2点(約90%達成)、一部実施1点(10~90%達成)、未着手又はほぼ進んでいない0点(0~10%達成)として点数化。

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(1) 家族や各年代が参加できる場の提供	1 環境学習館における環境に関する講座数	回	18	36	28	×		2 環境課	実施方法を工夫する等、新型コロナウイルス感染症対策を講じて計28回実施した。	身近な環境について興味を持つきっかけづくりとして、引き続き本事業の周知を図り、多くの市民の参加を募ることで、環境学習の底上げを図る。また、子どもだけではなく大人も参加しやすいメニューについて検討する。
	2 学校における環境教育	実施状況	小中全校 で実施	小中全校 で実施	小中全校で 実施	○		3 学校教育課	新型コロナウイルス感染症の影響があったが、感染症対策を徹底しながら、環境センターへの見学を行った。社会科や総合的な学習の時間に環境教育を実施した。環境ポスターコンクールへの参加を児童に促した。	コロナ禍以前のような形で校外での環境教育の実施を行う。学習指導要領に基づき、環境教育を推進する。環境問題改善の啓発のため、ポスターコンクール等の参加を促す。
	3 環境フェア実行委員参加団体数(個人参加含む)	団体・個人	18	20	17	×		1 環境課	R4.10.15環境センターで実施。	コロナ禍以前のように福岡中央公園での開催を検討する。
	4 エコラボフェスタの開催回数	回	—	1	1	○		3 環境課	新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、工夫して開催した。	引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらもより多くの人に参加いただけるよう開催方法等を検討し、工夫して開催する。
	5 こどもエコクラブの登録数	団体	1	2	1	×		1 環境課	登録団体：ふじみ野こどもエコクラブ	平成28年度に2団体から1団体に減少した。ホームページで団体紹介しているが、PR不足は否めない。

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(1) 地域や 団体が連携 した環境事 業の推進	6 環境協働事業を実施した環 境活動団体数	団体	4	6	3	×	1	環境課	花と緑部会：緑のカーテンの普及促進 上福岡駅前に花と緑を育てる会：上福岡駅前 ロータリーの花壇化 ごみ減量をすすめる会：ペランダ de キー 口の普及促進	継続事業が多く、新規事業や新規団体の参入 が少ない。また、新型コロナウイルスの影響 により活動の幅が縮小している。
	7 大学や企業と連携した環境 学習事業	実施状況	実施	実施	実施	○	3	環境課	教育機関（文教学院大学）や企業（KDDI総合 研究所）との連携した環境学習事業を行っ た。	引き続き近隣の教育機関や企業と連携した事 業運営を行っていく。
	8 地域環境美化自主活動延べ 参加者数	人	8,201	8,693	6,757	×	1	環境課	・地域環境美化自主活動への支援 ごみ袋配布枚数 6,685枚 ごみ回収回数 153回 ごみ回収量 9,199kg 延べ参加人数 6,757人	新型コロナウイルスの影響により活動を自粛 する団体もあるが、規制緩和により昨年度に 比べ参加者数も増えている。
(1) 環 境 情 報 の 提 供	9 環境年次報告書の発行・市 HPへの公表	実施状況	実施	実施	実施	○	3	環境課	3月発行・HP掲載	市民への周知とともに、経年変化の把握のう えでも毎年発行する必要がある。
	10 環境情報のネットワーク化 をした環境活動団体数	団体	—	6	0	×	0	環境課	実施無し。	まずは環境協働事業実施団体のネットワー ク化により、情報の共有化等を検討する。
(2) 環 境 調 査 の 充 実	11 環境調査の実施	実施状況	実施	実施	実施	○	3	環境課	【大気汚染、河川等水質、騒音・振動・交通 量調査業務】 大気汚染 一般大気：年4回7地点 沿道大気：年2回1地点 河川水質 水質：年4回5地点 魚類・底生生物：年1回1地点 騒音・振動・交通量 年1回3地点 【ダイオキシン類（大気・土壌）濃度測定業 務】 ダイオキシン類 大気：年2回2地点 土壌：年1回4地点 【自動車交通騒音面的評価業務】 自動車交通騒音測定面的評価 年1回1路 線	市民への周知とともに、経年変化や汚染・汚 濁の蛍光を見るうえでも毎年実施する必要が ある。

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(1) 清潔で 憩いのある まちづくり	12 ポイ捨て及び路上喫煙防止 キャンペーン	実施状況	実施	実施	実施	○	3	環境課	第1回：令和4年5月11日 第2回：令和4年11月9日	タバコを含むごみのポイ捨ての相談が引き続 き寄せられており今後も啓発が必要。
	13 道路清掃美化活動団体数 (道路サポーターズ)	団体	8	10	9	×	2	道路課	1団体は、日曜日・祝日を除いた営業日に実 施。外8団体は、年間4回以上実施した。	新規登録団体を増やし、道路美化活動等に協 働による維持管理を推進する。
	14 犬の飼い方しつけ方教室の実施	実施状況	実施	実施	実施	○	3	環境課	令和5年1月28日実施。 2市1町併せて27人（内ふじみ野市の受講者 12人）。	例年実技を行っていた犬が高齢で参加でき ず、デモンストレーションのみの講義であっ た。そのことに関する不満の声はなかった が、今後の要望として飼い犬と参加できる講 義の形が上がった。
(2) 魅力あ るまちな み、景観の 保全と創造	15 苦情があった空き地の未改 善箇所数 (年度末現在)	箇所	2	0	4	×	1	環境課	苦情19件の内4カ所が未改善。	苦情があった空き地の指導はもちろん、当該 年度に苦情がなくても、以前、課題のあった 空き地の一斉調査による指導も必要である。 (不適切な空き地は毎年同様に放置されるケー スが多い。)
	16 屋外広告物除去作業回数	回	28	25	25	○	3	道路課	年間25回実施した。 撤去したはり紙やはり札は合計で375枚で あった。	引続き、屋外広告物に対し、必要な規制を行 うとともに、定期的に無秩序なはり紙、立着 板などの除去を行う。
(3) うるお いとやすら ぎの場の創 出	17 1人当たりの公園等面積	m <sup>2</sup> /人	3.1	5.0	3.47	×	1	公園緑 地課	開発に伴う提供公園の採納が1ヶ所あった。	今後、公園等面積を増やす方を検討する必 要がある。
	18 公園等愛護会の数	団体	45	51	40	×	1	公園緑 地課	3団体が活動継続困難になり解散したが、新た に3団体が設立された。	既存の愛護会が活動を継続できるようにサ ポートをするとともに、新たに愛護会を設立 してもらえるよう呼びかける必要がある。
	19 市と連携した公園ボラン ティアの団体数	団体	1	4	0	×	0	公園緑 地課	公園ボランティア団体の立ち上げはなかった。	愛護会とは異なるボランティア制度の創設に ついて検討する必要がある。

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(1)安全・ 安心して住み あえるまち	20 交通安全教室の開催回数	回	16	16	16	○	3	道路課	交通安全の啓発活動の一環として、交通安全教室を開催した。	交通安全の啓発活動の一環として、交通安全教室を開催し、交通事故の防止の推進を図る。
	21 市が管理している道路照明灯等のLED化率	%	15.3	100	100	○	3	道路課	市が管理している道路照明等はLED化している。	維持管理に係る人件費のほか、維持管理費について軽減を図る。
	22 自治組織の加入率	%	56.7	59.5	46.7	×	1	協働推進課	11月を加入促進月間として市報折込チラシを全戸配布、ポスターを掲示した他、転入者へのチラシ配布等、広報活動を行った。また、各自治組織へ補助金を交付することにより、自主的な活動を支援した。	自治組織は、健康状態や活動に参加する時間が無いといった個別の事情による未加入者の増加や役員の高齢化・固定化などによる成り手不足など、様々な課題を抱えている。加入促進の取組はすぐに効果が表れるものではないが、今後も有効策を検討しながら、継続的に課題解決に取り組んでいく。
	23 雨水貯留浸透施設の設置数	箇所	45	52	54	○	3	上下水道課	新規の雨水浸透施設の設置0基	川崎地区で実施している調整池整備を、令和7年の台風シーズン前に完成させる。
	24 野焼きの防止(改善/指導の割合)	%	100	100	100	○	3	環境課	指導件数3件	現場を確認して指導する必要がある、通報の受理から迅速な対応が求められている。

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(1) 公害の未然防止・拡大抑制	25 大気環境基準達成率 (二酸化窒素と浮遊粒子状物質)	%	100	100	100	○	3	環境課	一般環境大気調査(自動計測器) 環境基準値 0.06ppm 二酸化窒素 期間最大値0.049ppm  一般環境大気調査(簡易測定) 沿道大気調査(自動測定器)	大気汚染の最も基本となる数値であり、市民の健康を守るため継続した確認が必要である。
	26 河川環境基準達成率 (生物化学的酸素要求量)	%	100	100	100	○	3	環境課	【大気汚染、河川等水質、騒音・振動・交通 量調査業務】 河川水質：年4回5地点 BOD(環境基準 5mg/L以下)  新河岸河(川崎橋) 2.6mg/L、 1.8mg/L、2.4mg/L、5.3mg/L 新河岸川(新伊佐島橋) 2.2 mg/L、 1.1mg/L、1.2mg/L、2.3 mg/L  ※ 参考(河川ではないため環境基準に係る類型 指定なし) 福岡江川(川通橋) 0.8mg/L、 0.6mg/L、0.6mg/L、0.5mg/L 砂川堀(織部橋) 3.0mg/L、 3.0mg/L、5.5mg/L、14mg/L 砂川堀(栄橋) 1.5mg/L、 1.0mg/L、1.1mg/L、2.8mg/L	新河岸川(川崎橋)及び砂川堀のBODが環境基準(5mg/L)を超過しているため、引き続き経過を確認する必要がある。
	27 浄化槽維持管理状況の把握	実施状況	—	実施	実施	○	3	環境課	浄化槽の維持管理状況の把握に努めた。	浄化槽法第11条の法定検査の受検が確認できていない浄化槽使用者へ適正管理をするよう通知書の発送を3年ごとに定期実施していく。 令和4年度は3月に実施(10人槽以下)

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(1) 地域温暖化防止対策の推進	28 庁用車の低公害車導入率 (アイドリングストップ付き自動車を含む。)	%	19.7	42.7	50	○	3	資産管理課	公用車全86台中40台が低公害車(アイドリングストップ機能付き含む)	車両の使用頻度を確認しながら、適正かつ効率的な車両台数となるよう調整を図っていくとともに、環境に配慮した次世代自動車の導入を進めていく。
	29 公共施設における屋上緑化、緑のカーテン等の設置施設数	施設	29	35	14	×	1	環境課	全81施設の内、14施設が実施。	前計画では、平成29年度目標値30に対し平成28年度実績29とあと1に迫ったため、新計画では目標35に増やしたが、平成29年度21、平成30年度13、令和元年度20、令和2年度13、令和3年度14と大幅な減となってしまった。
	30 公共施設の電気使用量	Kwh	17,691,615	16,807,035	13,845,904	○	3	環境課	目標を達成した。	目標を達成したが、引き続き削減に努める必要がある。
	31 学校給食における県内産食材の割合 (種類の割合)	%	11.7	15.0	20.9	○	3	学校給食課	県内産食材を活用した給食を提供できた。	県内産の積極的な活用を進めたいところだが、一方で、原材料については畑の面積が広大な県外産の方が安価な傾向もあり、埼玉県内産を優先するとコストが上がってしまう状況にある。



施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(1) 廃棄物発生抑制と減量化の推進	32 1人1日当たりのごみの量 (家庭系、事業系)	g/日・人	家庭系604 事業系176	家庭系585 事業系154	生活系578 事業系152	○		3 環境課	平成30年度までは減少を続け、「1人1日あたりの生活系ごみ量が少ない市」5年連続県内1位を達成していた。その後新型コロナウイルスによる影響でごみ量が増加したが、令和3年度以降減少し、令和4年度は設定していた目標値を下回り、排出量は過去10年で最少となった。県内でも「1人1日あたりの生活系ごみ量が少ない市」の上位を維持する結果となっている。	生活系ごみ、事業系ごみとも減少傾向にあり、今後もさらなる削減を進めるために、3R及び分別意識の啓発に取り組んでいく。
	33 最終処分量	t	571	356	385	×		2 環境課	最終処分量を減少させることができた。目標値には届かなかったが、目標の92%まで減少させた。	参加者にオリジナルメモボードを配付しフードロスモニターになっていただくキャンペーンやフードドライブ情報の積極的な発信等により食品ロスの削減を図り、ごみ量のさらなる削減を目指していく。
	34 生ごみ処理容器販売件数	基	67	80	54	×		1 環境課	市役所本庁舎においてキエーロ相談会を3回実施。R4年度より電子申請受付を開始した。	広報やホームページ内のペラダdeキエーロ紹介ページを充実させ、認知度を上げる。市のイベント以外での販促活動についても検討していく。
	35 集団資源回収量	kg	570	570	347	×		1 環境課	対象の資源物（新聞紙、ダンボール、雑がみ、布類、アルミ缶、生きびん）の自主的な回収活動を行った自治会等の団体に対し、回収量に応じた報奨金を交付した。R4年度からは対象品目に雑誌、紙バックを追加し、また電子申請も開始した。	主に古紙類の買い取り価格が下落もしくは逆有償となってしまっており、回収量が減少してしまっているため、報奨金の単価や対象品目の見直しを検討していく必要がある。

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(2) 再 利 用・リサイクルの推進	36 焼却ごみ量	t/年	24,378	22,776	22,799	×		2 環境課	ふじみ野市・三芳町環境センターの焼却量をふじみ野市分の搬入割合で按分している。 ※ 36,147.89 t×63.07%≒22,799 t	資源化可能な紙類などの可燃ごみへの混入が、家庭ごみ・事業ごみともにまだまだ多くみられることから、収集業者等と連携し、市民及び事業者に対する分別の周知徹底を図る。また、生ごみの水切りについても引き続き推進していく。
	37 リサイクル率(灰含む)	%	29.6	31.8	28.8	×		1 環境課	リサイクル対象品目総排出量÷総ごみ排出量×100(%)	ごみの排出量は減少しているがリサイクル率は横ばいとなっており、今後も市民及び事業者に対する分別の周知徹底を図る。
	38 フリーマーケットの開催回数	回	1	2	0	×		1 環境課	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未実施	新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの開催方法を検討する。
(3) 廃 棄 物 の適正処理	39 不法投棄パトロールの実施	実施状況	随時実施	随時実施	随時実施	○		3 環境課	月1回を目安に、資源物や家電の持ち去り防止も兼ねたパトロールを実施した。	不法投棄件数が横ばいであることから、パトロールによる抑制効果は十分得られているとは言えないため、今後もパトロールを強化していく。また、市民の方から持ち去り等の問合せもいただいているので、そういった地域を重点的にパトロールするように努める。
	40 不法投棄回収の回数	台(収集車)	77	57	62	○		3 環境課	集積所等への不法投棄があった場合に、必要に応じて回収を行った。	不法投棄件数は昨年度と横ばいであることから、パトロールの強化に努めていく。

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(1) 緑の保 全・創出	41 緑地保護地区面積	m	125,015	125,015	110,811	×	1	公園緑地課	目標は未達成だが、令和3年度と同面積を維持した。	緑地を保全するインセンティブとなるように制度の見直しが必要である。
	42 緑被率	%	34.5 (H23年度)	40	27.2	×	1	公園緑地課	緑の基本計画策定時に緑被率調査を行った結果、27.2%だった。	高い開発需要の中でも緑被を維持できるような制度が必要である。
	43 市民農園数	箇所	7	9	8	×	2	産業振興課	農業入門塾については、新型コロナウイルスの影響や天候により一部中止となったものの、令和4年度中に11回実施し第1期(20名)が修了した。令和5年度以降の第2期を募集したところ17名の応募があった。また、市民農園8カ所の利用率は86.2%となった。	市民農園1箇所(苗間第一)が地権者の返還意向により令和4年10月から廃止になった。令和5年度中に新駒林第一農園及び農業入門塾の用地の返却されることになり、令和5年度目標値の10箇所に向けて、4箇所の農地を探す必要がある。農業入門塾についても令和4年度末で第1期が修了し、令和5年度か第2期が開始している。今後市民農園用地の検索にも関係機関と連携をとりながら行う必要がある。
(2) 水辺環境の保全・再生	44 新河岸川の美化活動回数	回	2	3	1	×	1	道路課	河川愛護団体が主催する清掃活動については、11月に団体と職員で協働して行い、3月は河川工事と重なり中止となった。また、6月に埼玉県川越県土整備事務所主催の清掃活動に河川愛護団体、企業、行政が協働し、水辺環境の美化の推進を図った。	河川的环境美化のほか、協働による維持管理を推進する。
(3) 自然環境を育む生物共生空間の保全	45 アライグマの捕獲数	頭	3	15	2	×	1	環境課	アライグマを2頭捕獲した。	市民の申し出により、箱ワナの設置及び回収を行っている。箱ワナにハクビシンやタヌキがかかる場合も多い。多くの市民のニーズに対応するため、ワナを増やす必要がある。
	46 新河岸川生息生物の把握(生物調査)	実施状況	実施	実施	実施	○	3	環境課	8月10日に新河岸川新伊佐島橋付近において、魚類調査の結果5目6科15種の魚類を確認	市民に分かりやすい指標であり、継続実施が望ましい。

施策	行動指標	単位等	現 状 平成28年度	目 標 令和4年度	令和4年度	評価1	評価2	所管	令和4年度の実績	令和4年度の課題等(今後の課題取組等)
(4) 美しい自然景観と歴史的資産の保全、調和	47 自然環境と調和した歴史、文化財に関する講座回数	回	9	13	2	×	1	教育委員会(社会教育課・公民館・歴史民等)	<p>【社会教育課】</p> <p>令和4年度も権現山古墳群史跡の森の樹木の多くがナラ枯れの被害にあったため、令和4年7月25日から令和5年4月10日まで閉鎖した。8月3日に実施した小学生対象の「権現山探検 葉の標本づくり」(参加者10人)では、現地見学はできなかったが、スライドで権現山の自然やナラ枯れについて説明した。</p> <p>令和5年3月25日に「新河岸川周辺の文化財と地形散策」を実施する予定であったが、雨天のため、4月22日に延期した。</p>	<p>【社会教育課】</p> <p>権現山は徳川家康の伝承がある史跡でもあり、県内でも希少な古墳群と雑木林を保全し、歴史と文化、自然を体感できる場所として、「権現山古墳群史跡の森」を多くの人々に周知していきたい。</p> <p>史跡や自然の保護と利活用の両面から、維持管理の方策、市民対象事業の立案、ボランティアの育成などを検討するとともに、特に近年、敷地内の樹木の多くがナラ枯れの被害に遭い、かなりの本数を伐採したため、樹木の管理・育成も含め、全体の整備活用計画を立てる必要がある。</p>
	48 文化財の指定数	件	58	60	59	×	2	社会教育課	<p>令和4年度は新指定の文化財はないが、新河岸川舟運で栄えた福岡河岸の回漕問屋の一つ「旧江戸屋」の土地と建物が昨年度市に寄付されたため、指定文化財候補として明治時代建築の主屋・穀蔵の建物(未指定の文化財)の維持管理のために清掃、敷地内の樹木剪定を行うとともに、庭園調査を実施した。</p> <p>また、市指定文化財「しだれ桜」の保存・維持のために、枯れ枝の剪定や剪定後の防風処理、支柱の取替・追加等の修繕に対し、所有者へ補助金を交付した。</p>	<p>県指定史跡「権現山古墳群」、市指定文化財「回漕問屋 福田屋」(福岡河岸記念館)、国登録有形文化財「吉野屋土蔵」、旧江戸屋の建物など、新河岸川沿岸の文化財や福岡河岸の景観、自然環境と歴史資産の保全・調和の視点をもった整備活用計画づくりが必要となる。</p> <p>また、市指定文化財「しだれ桜」「けやき」の保存・管理・育成などの方策を検討していく必要がある。</p>
					計	22	96			
「評価1」: 目標値に対し、達成していれば「○」、未達成の場合は「×」。										
「評価2」: 完了3点(100%達成)、あと少し2点(約90%達成)、一部実施1点(10~90%達成)、未着手又ほぼ進んでいない0点(0~10%達成)として点数化。										

### (3) 協働による環境協働事業の促進

第2期環境基本計画前期行動計画の施策の柱の1つである「学びと協働の推進」に基づき、環境活動団体が実施する環境協働事業の経費を助成することで、環境活動団体の育成等に努め、環境協働事業の推進を図ります。

#### ①花と緑部会

1 提案事業名	緑のカーテン普及啓発事業
2 事業の目的と事業内容	<p>SDGs 持続可能な開発目標の達成、カーボンニュートラルなどを目標に、環境ボランティア団体として、環境に関する事業を推進し貢献していく。とくに、「緑のカーテン」普及啓発を通じ、二酸化炭素削減、省エネの必要性を広め、各家庭における環境問題への意識向上を図っていく。</p> <p>主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑のカーテン用苗の無料配付</li> <li>・緑のカーテン、モデル事業（市役所本庁舎前の緑のカーテン）</li> <li>・緑のカーテン・コンテスト、表彰式の実施</li> </ul>
3 事業の期間	令和4年4月から令和4年9月まで
4 事業実施状況	
令和4年 5月9日	緑のカーテン用苗配布 市役所本庁舎及び大井総合支所にて各150組配布（900株）
5月13日～ 9月30日	緑のカーテンモデル事業として、市役所本庁舎玄関脇において、プランターへの植え付け、ネット等の設置、撤去等
10月16日	緑のカーテン・コンテスト表彰式（36点の応募から選定） 12月～2月にかけてふじみ野市・三芳町環境センターで展示
5 事業の成果	<p>コロナ禍において、一部縮小して開催した事業もあったが、企業、団体、市民の皆様のご理解のもと、順調に事業を推進することができた。</p> <p>当事業を推進したことで、多くの市民の方に省エネ活動に参加してもらい、また環境問題への意識向上を図ることができた。</p>



②ごみ減量をすすめる会

1 提案事業名	ごみ減量推進事業
2 事業の目的と事業内容	ごみ減量を推進するために「ベランダ de キューロ」の利用者数を増やすための展示販売相談会を開催。
3 事業の期間	令和4年4月から令和5年3月まで
4 事業実施状況	
令和4年	
4月 9日	定例会
5月 9日	定例会
6月 9日	展示販売相談会（ふじみ野市役所本庁舎）
7月 12日	定例会
9月 13日	定例会
9月 27日	展示販売相談会（大井総合支所）
10月 11日	定例会
10月 15日	展示販売相談会（環境フェア）
11月 3日	展示販売相談会（産業まつり）
11月 19日	展示販売相談会（イオンイベント）
令和5年	
2月 5日	定例会
3月 4日	定例会
3月 27日	展示販売相談会（ふじみ野市役所本庁舎）
5 事業の成果	相談会を重ねることによってベランダ de キューロを周知することができ利用者が増えてきた。

ベランダ de キューロ展示販売会及び相談会実施状況



③上福岡駅前に花と緑を育てる会

1 提案事業名	上福岡駅の駅前西口ロータリーエリア緑地帯の花壇化、維持管理事業
2 事業の目的と事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじみ野市の主駅玄関に相応しく、季節感に溢れた素敵な草花・花木がいつでも咲いている駅前西口ロータリーエリア緑地帯にすることを目的とする。</li> <li>・当該緑地帯を無理なくできる範囲で花壇化、草花・花木を植栽、季節感を有した素敵な緑地帯にすべく自主的・主体的に維持管理する。</li> </ul>
3 事業の期間	令和4年4月から令和5年3月まで
4 事業実施状況	
令和4年4月～令和5年3月	<p>毎週月曜日に上福岡駅西口ロータリーエリア緑地帯花壇を維持・管理、並びに花卉植栽・植替え（冬, 春版、夏, 秋版）を遂行。</p> <p>事業参加者（登録者）97名 （毎週月曜日の作業会には10～20名が参加）</p>
5 事業の成果	<p>駅前西口ロータリーエリア緑地帯（仮称「3本桜緑地帯」及び「ホッケースティック緑地帯」）の雑草除去・石取除き、肥料蒔き、花を咲かせる草花の植栽・植替え（冬, 春版、夏, 秋版）、水遣り作業、並びに周辺清掃等々の適切な維持・管理により緑地帯花壇を確立。</p> <p>結果的に当該エリア及びココネ広場を通行利用する人達の心身を和ませ癒している。</p>

